ＩＳＭシンポジウム

インターネット調査の現状を検証する

－調査法としての評価方法と標準化をどう考えるか－

平成１５年３月２５日（火曜日）－２６日（水曜日）

統計数理研究所・講堂

東京都港区南麻布４－６－７

主催

文部科学省統計数理研究所

協賛

(社) 日本マーケティング・リサーチ協会

日本行動計量学会　日本分類学会

シンポジウムの主旨

改めて指摘するまでもなく、調査環境は悪化の一途をたどり、改善の兆しはほとんど期待できそうもない。こうした調査環境への危機感が高まるなかで「インターネット調査」(Internet surveys) が登場し急速に普及している。しかし、それが信頼に足る調査法であるとの客観的な論証はいまだ十分とはいえない。調査分野には調査方法論として、既に世に現れた多数の調査法がある。そのいずれも、科学的な調査方法論の研究と実用化の長い熟成期間を経て、次第に調査法として淘汰され定着してきた。インターネット調査もまた同じような過程を経て、つまり科学性に則った客観的な議論のうえに構築される方法論であることが望まれる。また、ITへの理解への高まり、インターネットの普及から、インターネット調査は、いずれ従来型調査法に代わる調査方法論として、しかるべき位置を占めるであろうことも予想される。

事実、調査業界（とくに市場調査分野）の一部には、インターネット調査が、すでに既存の調査法に代替する手法として認知されたとし、また従来型調査法に劣らぬ信頼ある情報の提供手段として優れた方法であるかのような議論があり、また記事・紙誌面情報も散見される。しかし、インターネット調査の実務環境の“現状を”子細に眺めると、論証によって問題点を明らかにする姿勢が十分とは未だいえず、また実証に裏付けされた客観的な根拠がみられず、こうした評価が単なる言葉の羅列となっている感もある。

そこで、このシンポジウム開催を機会に、関係する研究者、調査機関関係者、企業人、その他、インターネット調査に関心のある者が会して、そもそもインターネット調査とは何か、その特性をどう評価するのか、従来型調査とどう異なるものか、調査法としての標準的な規範とすべき姿（標準化）はどうあるべきか、といった基本的な要素について、学術的な調査法研究の観点から客観的な議論の展開を試み、互いの理解を深める場としたい。

【オーガナイザー】

大隅　　昇（統計数理研究所）
吉村　　宰（大学入試センター）
前田　忠彦（統計数理研究所）
清水　信夫（統計数理研究所）
横原　　東（㈱電通リサーチ）
渡會　　隆（㈱東京サーベイ・リサーチ）
鈴木　文雄（㈱日本リサーチセンター）
馬場　康維（統計数理研究所）
金藤　浩司（統計数理研究所）

目次

【招待講演】

Meta-Analysis of Web Surveys ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
Vasja Vehovar and Katja Lozar Manfreda
Faculty of Social Sciences, University of Ljubljana, Slovenia
（スロベニア共和国、リュブリャナ大学、社会科学部、助教授）

【一般講演】

1．インターネット調査の質の評価を考える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
吉村　宰（大学入試センター）
大隅　昇（統計数理研究所）

2．インターネット調査における調査票設問設計の評価
ー設問形式が回答に及ぼす影響を測るー ・・・・・・・ 33
松田浩幸（早稲田大学、理工学研究科）
大隅　昇（統計数理研究所）

3．DENTSU_R-netに基づくインターネット調査の検証
ーとくに第4次実験調査結果を中心としてー ・・・・・・・ 55
横原　東（㈱電通リサーチ、研究開発部）
武田正樹（㈱電通リサーチ、研究開発部）
細井　勉（㈱インスパイア・マーケティング・テクノロジー）

4．e-HABITの特徴と今後のインターネット調査パネル構築
ー各実験サイトのデータ比較からー ・・・・・・・ 75
中谷吉孝（㈱博報堂、研究開発局）
上嶋幸則（㈱博報堂、研究開発局）
渡會　隆（㈱東京サーベイ・リサーチ）
瀧中勢子（㈱東京サーベイ・リサーチ）
蓑原勝史（㈱東京サーベイ・リサーチ）

5．インターネットサーベイと従来型調査の比較検証
ーCyber PanelとNOS（オムニバス調査）を用いた比較実験調査からー・・・・・・ 95
鈴木文雄（㈱日本リサーチセンター）
笹田幸典（㈱日本リサーチセンター）